



芦屋市も被災地支援に尽力

ライフラインの委託、広域化に懸念

昨年は大変お世話になりました。新しい年を迎えましたが、元旦に石川県能登地方を震源とする大きな地震が発生し日本海側の広い範囲で被害が確認され、能登半島では日を追うごとに被害が拡大している状況に胸が痛みます。この地震でお亡くなりになられた方のご冥福を謹んでお祈りするとともに、被災者のみなさまには心よりお見舞い申し上げます。



芦屋市議会で能登半島地震支援募金活動に取り組み、沢山の方に協力いただきました

阪神淡路大震災の際に応援いただき、今回の被害が大きかった石川県内3市に対して芦屋市から1月4日、今後の被災支援に迅速にいかすため防災安全課職員3人が派遣されました。芦屋市議会としましては、ただちに同3市議会に対してお見舞状およびお見舞金を（派遣職員を通して）届けました。迅速および適切な支援につなげていただきたいと願っています。

さて昨年、山口みさえは12月議会の一般質問で、神戸市のごみ処理施設の広域化など環境問題を取り上げました。効率化を求め各部課や施設の統廃合、

広域化を推し進める芦屋市の行政運営に対して、阪神淡路大震災を経験した芦屋市だからこそ、水道、消防、救急、そしてごみ処理施設などを安易に統廃合や広域化にはいけないと、高島市長に訴えたばかりでした。阪神淡路大震災を経験していない世代（市長や副市長）にも災害に強いまちづくり、常に備えるという視点をしっかり訴えていきたいと思えます。

山口みさえは、今年も市民のみなさまの命と暮らしを守り、みなさんとともに福祉教育の増進・そして働く人の権利を守るため頑張ります。

芦屋市議会議員

山口みさえ



@YAMAGUCHIMISAE1120

経過や現場見ない任命は認められない

市長推薦の教育委員に突如交代は違和感

教育委員4人中、1人が12月で任期満了を迎えるため、このたび市長が新たに教育委員を任命しようとして議会に同意を求めましたが、反対多数で不同意となりました。山口みさえも反対をしましたが、理由は4点です。



1つは、教育委員の大切な役割は市民の意向を教育行政に反映させることですが、芦屋の教育現場に長らく携わって教育行政に貢献してきた教育委員を市長が再任せず、突如縁もゆかりもない元埼玉市教育委員長の細田氏を選任する理由が「市長と教育観が一致したから」だそうですが、そもそも市長のいう教育観、「芦屋市の子どもにとって最高の学び」とは何かが理解できません。細田氏の埼玉市で公立小中学校3校を統廃合し3600人規模の小中一貫校を推進してきた実績が芦屋の教育にふさわしいとも思いません。

2つは、再任しなかった理由に4年の任期が終わったから何ら問題はないうとし、しかも再任がないことをご本人に伝えたのも任期終了の直前とい

う大変失礼なやり方でした。これまでの芦屋の教育を大変軽んじているように映りますし、これまでに積み上げ培ってきた財産（人間関係）を壊すこ

とになりかねません。3つは、細田氏は、現在も多数の要職を兼ねている方で、月に2回の芦屋市教育委員会やその他の行事を優先できる状況化にはないと思います。4つは、合議制の教育委員会にオンライン対応が可能なのかや、埼玉から片道5時間かけてくるのに交通費等の条件整備も整えていません。

政治的中立性保てるか

図書館など社会教育の所管変更

図書館や公民館など「社会教育」を教育委員会から市長部局に移す条例が賛成多数で可決されましたが、山口みさえは反対をしました。

理由は①社会教育の歴史的、文化的営みを市長部局に移すにあたり、教育的観点（内容）は後回しにして、市長部局の所

管にさえすれば、持続可能なまちづくりとして発展させることができるという安易な考え方、②行革推進的な考え方が色濃く、教育をどう保障するかより、社会教育施設の運営（営利）が重視され、政治的中立性の確保の保障もなし崩しになる、③市長部局に移管しても

これまで以上に連携していくと強調しているが、今の体制でも連携できる、④教育内容は合議制の教育委員会が責任を持ち、市長は教育を発展させるための条件整備を財政面から責任を持つという役割分担がなし崩しになる、⑤移管するにあたり教育総合会議や教育委員会でのどのような審議をしてきたのか、問題点の整理や各審議会や、議会に対しての説明も大変不十分と考えたからです。

来年7月 医療費無償を18歳まで拡大

現在芦屋市の「子ども医療費助成制度」は中学3年生までが無償で所得制限があります。今回の提案では、来年の7月から高校生（18歳）まで無償化が拡充されますが、通院等に関しては別表の通り※2負担金800円が必要となります。高島市長は選挙公約で子ども医療費助成制度は18歳まで所得制限撤廃を掲げていましたが、過剰受診控えと持続可能な制度とするため完全無償化にはできないということでした。

所得基準額(※1)以上	0歳		1歳～ 中学校3年生		高校生相当の者	
	入院・入院以外 負担なし(全額助成)	入院・入院以外 負担なし(全額助成)	入院 負担なし(全額助成)	入院 負担なし(全額助成)	入院以外 800円(※2)	入院以外 800円(※2)
所得基準額未満	負担なし(全額助成)		負担なし(全額助成)		負担なし(全額助成)	

【修正案】

所得基準額(※1)以上	0歳		1歳～ 中学校3年生		高校生相当の者	
	入院・入院以外 負担なし(全額助成)	入院・入院以外 負担なし(全額助成)	入院 負担なし(全額助成)	入院 負担なし(全額助成)	入院以外 800円(※2)	入院以外 800円(※2)
所得基準額未満	負担なし(全額助成)		負担なし(全額助成)		負担なし(全額助成)	

※1 保護者等のいずれもの「市町村民税所得割額」が23万5千円未満
※2 保険医療機関等ごとに1日につき800円を限度に、月2回まで保険医療機関等に支払う。3回目以降の受診等に係る一部負担金はなし。

合理的配慮の提供 事業者も義務化

芦屋市障がい理由とする差別のない誰もが共に暮らせるまち条例が改正され、事業者が行う「合理的配慮の提供」(例えばスロープや手すり、タブレット等)が努力義務から義務化に変更になりました。事業者は、事業を行う

にあたり社会的障壁の除去を障がい者から求められると、障がい者の権利利益を侵害することとならないよう必要かつ合理的な配慮をしなければなりません。行政の役割として、条例の周知徹底、助成制度の充実、県相談センターで専門的なアドバイスが受けられるよう事業者任せにすることなく取り組みよう要望しました。

単独か広域化かハッキリと

ごみ処理施設 市民も職員も困惑

市長が神戸市にごみ処理施設の広域化を依頼しながら、芦屋市単独施設の基本計画もそのまま進行させていることに対し、山口みさえは、このような中途半端な行政運営は市民にも職員にも混乱を与え相手の神戸市にも失礼であると是正を求

めています。12月議会では、①市長が選挙公約で、自身が大学で学んだ環境工学の知見をいかしてごみ処理施設の広域化実現を約束していたのに、環境問題全般の広域化だと議会答弁で話がすり変わっていることを指摘②また広域化

か単独整備かを決断するデットラインは令和6年3月ということですが、この短期間に神戸市との様々な問題の解決ができるのか?例えば公害防止協定の環境基準についてや、家庭ごみの分別等のスタイルの違い、一番近い神戸市東クリーンセンターが大規模改修に入っています。さらにごみ処理の負担金額、災害時の協定など広域化は非現実的です。

戸籍の広域取得 芦屋市でも可能に

戸籍謄本等の広域交付について、これまでは戸籍等取得するには、本籍地の窓口か郵送での交付請求でしたが最寄りの市区町村(芦屋市役所)窓口でも交付請求が可能になります。その他にも戸籍(除籍)電子証明書

提供用識別符号(パスワードのようなもの)を行政機関に提出することにより、戸籍(除籍)電子証明書の提供も可能になり、パスポートを申請するときなど便利になります。ただ便利の裏には個人情報報の集中や漏洩の危険もあり、システムエラー、ヒューマンエラー防止の徹底について訴えました。

議会報告会を行います

みさえ広場では、12月議会の報告会を以下の日程で開催します。

11月の報告会では、「指定ごみ袋の小サイズが不足している。行政の見通しが悪い」「ふるさと納税で芦屋市の税収が大幅に減っている。制度に問題はないのか」といった意見が出されました。

気兼ねなく参加いただき、みなさまの忌憚のないご意見を聞かせて下さい

日時 2月4日(日)
10:00~11:30
場所 陽光町県営住宅
集会所
住所: 陽光町6-8



培った経験をいかし、体に優しい食事を提供してくれることに期待

市民センター内のカフェ 1月28日にオープン

昨年、5月末に市民センター内のキッチンカフェなりひらが閉店しました。その際に、コロナ禍で運営を頑張ってきた、シルバー人材センター(自主事業)の方たちとともに山口みさえもお店の存続を求めて、署名に請願審査に一般質問にと奮闘してきました。残念ながら法人が赤字を理由に閉店を決定した中で、力および市民の憩いの場として、また市民センター

ターでの文化的な活動の交流の場としても店舗の1日も早い再建を願って、民生文教常任委員会の所管事務調査でその後の動きの調査を継続してきました。

12月に運営事業者の募集結果が教育委員会から報告されました。9月に3社の応募があり、その中で一般社団法人グランディング芦屋が、新たに、市民が憩い交流する場の保障として、障がい者や小さいお子さんも利用しやすい店内のレイアウトや運営内容を提案され書類およびプロポーザル審査の結果選定されました。シルバー人材センター自主事業のときに培われた市民中心の店舗づくりが引き継がれることを願って、1月28日のオープンが楽しみです。

みさえの 独り言

年明け早々、大震災、大事故など落ち着かない年始となった。これまで他県や他市等で、震災や水害などが起こったときには、現地にも行つてできる限りのことを周りの人たちとも協力して行動してきた。今回は自分分には何ができるだろう。石川県能登半島地震では、聴覚障がい者災害救援基金(地域ろう協会を通して被害を受けた聞こえない人、手話通訳者等を対象に支援金、救済活動などに使用される)の協力や芦屋市議会では、街頭での被災者への募金活動に取り組んだ。そして国に要望したいことは、1日も早い救助と援助に全国の自衛隊を災害救助隊として国民の命と健康を救うために全力を尽くしてほしい。